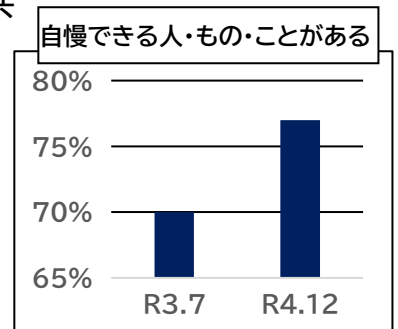


地域とともにある学校づくり

本校では、「地域とともにある学校づくり」を掲げ、「子どもに身に付けさせたい資質・能力」として

「ふるさとを愛し、地域の一員として活動することができる」を挙げています。そのため、「地域のことを知る「ふるさと学習」や習字やクラブ活動など“地域の方を講師に迎える学習”等”等”に取り組み、様々な場面で地域の方々や保護者の方々にお世話になっています。毎学期はじめに地域のボランティアや中学生と共に行うあいさつ運動もその一環です。毎学期の児童アンケートでは、「自慢できる人・もの・ことがある」と答えた児童は、77%(R4.12)です。昨年度1学期は、70%ほどでした(右図参照)ので、ふるさとを誇りに思う児童が少しずつ増えてきているのがわかります。これも、常に子どもたちに笑顔で関わってくださる皆様のおかげです。ありがとうございます。



以下は、熊本県文集「ゆめ」に、多数の応募の中から掲載された5年生の山本悠加さんの作文です。学校の自慢として地域の方々と共にやっていることを挙げ、感謝の気持ちを表しています。すばらしいですね。

「地域と共に歩む学校」

5年1組 山本 悠加 (やまもと ゆうか)

私たちの学校では、自慢できることが二つあります。それは二つとも地域の方々と一緒にやっていることです。

一つ目は、あいさつ運動です。朝から地いきのボランティアの方々が通学路に旗をもって立ち、子どもの安全のことを考えて協力してくださいます。そのときに、あいさつも一緒にして下さるのです。正門やうら門にも立ってあいさつ運動をしてくださいます。いつでも明るいあいさつと安全な登下校ができ、とてもありがたいことだと思っています。

そこで私たちも休み時間などにろうか旗をふって、あいさつをするようによびかける取り組みをしています。地域の方々に負けないように、自分から大きな声ではきはきとあいさつをすることを心がけています。あいさつで有名な学校にしたいです。

二つ目は、二十五年も続いている「広安フェスタ」という一年に一回のお祭りです。広安フェスタは、地いきの方と学校とが協力して取り組んでいきます。最近ではコロナのえいきょうで、以前のようにはできていないけれど、地いきと学校をつなぐかけはしのようなようです。フェスタでは、学年ごとに学習したことや音楽などをステージで発表して伝えます。その後、昔から伝わる伝しよう遊びを地域の方々と一緒にします。遊ぶ道具も作るころから地域の方に教えてもらい、でき上がったもので一緒に遊びます。例えば、竹とんぼや竹馬、水でっぼうなどです。昔遊びなので、地域のお年寄りの方がコツをよく知っておられて、分かりやすく、とても上手にできるのです。でき上がったものを家に持ち帰り、兄弟と遊ぶことができるので、とても楽しいです。

このように、私たちの学校では、地いきの方と共に、たくさんの行事を行っています。地いきの方々の協力がないと、どれもなかなかうまくいかないものばかりです。おいそがしい中にたくさんの力をかして下さることに感謝の気持ちをわすれず、これからも共に広安小学校をもり上げていきたいと思っています。
(原文のまま)

★本校ホームページに、子どもたちの様子や学校だよりを掲載していますご覧ください！

広安小

で 検索！

× ニュ

から「学校生活」や「学校だより「霧虹」」をクリック！